

承認/1991年3月8日
 例会日/火曜日・PM6:30
 例会場/名古屋 Marriott アソシアホテル

事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号
 名古屋 Marriott アソシアホテル2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

会長/小野 雅之
 幹事/木下 福郎
 会報・雑誌・広報委員長/
 朝比美和子



2009-2010

WEEKLY REPORT

2009-2010年 RI会長 ジョン・ケニー

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinan-rotary.com

第907回

2010年5月18日(火) 曇り 第40回

斉唱 四つのテスト
 出席 会員68名(出席率算入人数61名)
 出席52名 出席率85.25%
 前々回補填率95.08%(4月27日分)

5月の結婚記念日

7日 太田 敦士さん 20日 安藤 鉄一さん
 23日 有川 英敏さん

会長あいさつ

会長 小野 雅之さん

皆さん、こんばんは。
 先ほど4時半から新旧クラブ
 アssenブリーを行いました。よう
 やく次期の理事・役員の方に引
 継ぎが終わり、ほっとしたところ
 でございます。あと1ヶ月と1回と
 いうことで、その間またがんばり
 たいと思います。



幹事報告

幹事 木下 福郎さん

1. 次週5月25日はゆったり例会です。ホテルアソシア名古屋ターミナル9階「エスペランス」ですので、お間違いのないようお願い致します。
2. 事務局はロータリーのご用以外には駐車券はお渡しできませんのでよろしくお願い致します。

ニコボックス

◆ 本日は、日本の伝統的な美、着物を手がける生野房江さん、地球規模のCO₂排出権、生物多様性などに携わっている東山直史さんの会員卓話です。どんなお話が出るのか楽しみにしています。よろしくお願い致します。

榊原 和美さん 川村 繁生さん 出田真太郎さん
 武藤 正行さん 山本 誠一さん 白銀 義昭さん
 山崎 淳さん 細井 俊男さん 三浦 隆さん
 江村 雅夫さん 江上 隆夫さん 水野 俊男さん
 田中 省三さん 加藤 宜之さん 黒田 康正さん
 白藤 憲雄さん 川辺 清次さん 鈴井 一博さん
 木下 福郎さん 坂田 信子さん 新原 尚さん

宮澤 伸光さん 杉山 隆秀さん 野々村憲吾さん
 伊藤 圭一さん 本多 利郎さん 浅井 浩さん
 安藤 修さん 佐々木 眞さん 三島多恵子さん
 中村 勝さん 堀田 光江さん 大橋さなえさん
 入谷 直行さん 杉本 勇さん 朝比美和子さん
 犬飼りさ枝さん 太田 敦士さん 鈴木 清詞さん
 坂本 晃さん 有川 英敏さん 中西 芳子さん
 小野 雅之さん 長尾 浅吉さん 児島 徳和さん
 平沼 里子さん 森田敏二三さん

- ◆ 本日卓話をさせていただきます。よろしくお願ひ致します。 生野 房江さん
- ◆ 無味な卓話です。期待は御無用!! 東山 直史さん
- ◆ ゴルフ部会で初めて優勝しました。これからもガンバります。 木村 猛さん
- ◆ 今週の言葉 ◆
 「一生感動。一生青春。」

本日合計 52,825円 累計 1,979,825円

委員会報告

■ 親睦活動・家族委員会 生野 房江さん

IDMのご案内です。6月22日(火)、18時30分から、場所は築200年の古き佇まい趣のある料亭「香楽」です。香楽鍋は鶏肉が主体になりますので、出席のお返事に、鶏肉のだめな方は×を、お煙草をお吸いになる方は○を書いて下さい。特別なお席をご用意して存分に楽しんで頂きたいと思っております。出欠のお返事は6月10日頃までをお願いします。

同好会報告

■ ハイキング同好会 木村 猛さん

22日に決定をさせていただきましたが、残念ながら定員に満たなかった為、今回は延期とさせていただきます。この失敗を糧にしてまた皆様に楽しくハイキングをしていただける企画を計画させていただきますので、その時はよろしくお願い致します。

副幹事報告

副幹事 吉木 邦男さん

次期の会員名簿のお写真を変更したい方は、来週火曜日までに事務局へメール等で送っていただくか、当日にお写真をお持ちください。

また、次期のクラブ協議会をホテルアソシア名古屋ターミナル19階「さくらの間」で5時から開催いたします。関係各位の方はお忘れのないようお願い致します。

■生野 房江さん

今までの私、今の私、そしてこれからの私をお話させていただきたいと思います。

私はチャーターメンバーではございませんがチャーターの年に入会いたしました18年半くらい経ちます。あまり真面目な会員ではなくメイクアップがほとんどでしたが、1回くらいは皆出席を狙おうと思い、あと6回なんとか貫けば今年は皆出席になりそうです。これを経験しまして、時間や行動範囲の様々な制約を受けましたが、自分で決めたことは自分でやるしかない、やればできるということに改めて勉強させていただいた次第でございます。

前職を辞めた理由ですが、前職はとある小さな町で小さな測量設計会社に務めておりました。最初はトレースをしたり、図面を書いたり、事務をしていたのですが、ある時から営業に回されました。しかし、その会社の社長がこともあろうに逮捕されてしまいました。すごい経験をしまして、私も取調べを受けました。社員もほとんど辞めて、営業は私一人になりました。

新しい社長は前社長の義理の弟にあたるお身内の方だったのですが、その社長を私がお連れして建設省、土木事務所、色々な役所を回りました。やっと指名停止が解除になり、初めての指名を受けたのが丁度半年後でした。本当に喜ばんばかりの出来事で、小さな物件でしたのでこれは取れると意気込んで話し合いに望んだわけですが、非常に頑固な業者さんが一人いまして、絶対に降りてくれませんでした。3時間近く話したのですが、他の業者さんから野次が飛び、止む無く降りざるを得ませんでした。手ぶらで帰ったわけですが、それでも指名が入って良かったということで、社長がごちそうしてくださいました。その時社長が姿勢を正して私の顔をまじまじと見て「僕を本当の社長にして欲しい。君がいると僕は社長になれないんだ。辞めてくれないか。」と言いました。本当にびっくりし、こんなに一生懸命がんばってやってきたのに、なぜ私が辞めなければならないのかと、私は言葉も無く啞然と顔を見ていましたら、「業者間で僕達のこと何て言われてるか知ってる？君が社長で、僕が鞆持ちで運転手にしか見えない。そんな風に言われているんだよ。僕を本当の社長にして欲しい。」と言われました。私は即辞めて、自分自身の力で社長になって見せると起業したのがきっかけでございました。

それからは、ダイレクトメールの宛名書きや郵便受取代行、電話受取代行等の内職に毛が生えたような仕事をしておりました。ある時、「受け手の開封率が高くなるよう、手書きでちゃんとした字の宛名書き郵便発送をしてほしい。」とお仕事をいただきましたが、その後「本当に手紙出してる？お客さんちっとも来ないよ。」と、言われました。食うや食わずの生活をしておりましたが、切手代をネコババするようなことはしておりませんでしたので、「ちゃんと出してますよ！嘘だと思えば電話して聞いて下さい。」と、売り言葉に買い言葉ではないですが、そのように話しますと、「手紙だけだと、



着いたかどうか、開けてくれたかどうか、ほしいかどうか分からない。電話は双方向性だからそれが全部分かる。悪いけど電話してくれる？」と頼まれたのです。その時の商品というのが、覚王山日泰寺お墓のマンションのお墓だったのです。私が一番最初に手がけた商品はお墓でした。

このお墓は電通さんが広告で大きく取り上げておりましたが、だんだんと広告予算を削られて、後は人海戦術しかないというところで私と出会いました。そして電話をする事になったのです。丁度3日目でした。その方は日泰寺の見学にいらっしゃった方で、「ご先祖様のご供養はもうどちらかでお済ましでいらっしゃいますか？」と、お電話をしましたら、「今うちはそれどころじゃないの。おじいちゃんが危ないの。」と言われました。「失礼しました。おじいちゃん良くなったら、またお二人で散歩がてらお越し下さい。」余命幾ばくも無いおじいちゃんが良くなるわけないのですが、そのように電話を早々と切ろうとしましたら、「ところで、あの4階の真ん中の一番大きなお墓はまだ残っていますか？」と。そこは一番大きくて一番高いお墓で、4区画の内2区画が売れておりました。「おばあちゃん、まだ2つありますよではなく、おばあちゃん、もう2つしか無いのです。」と言いましたら、なんと次の日に買いにいらっしゃったのです。お墓は全部で4800区画あり、それを売り切るまで私はずっと電話の仕事をしていて、今日を築き上げた次第でございます。

テレマーケティングという言葉をお聞きになった方もいらっしゃると思いますが、当時そういう言葉はありませんでした。最近ではコールセンターという存在の認知度が高くなりまして、電話を受けたり、掛けたりのアウトソーシング、また企業内でのインソーシング、それに合わせて派遣を行ったり、通販会社のコールセンターの支援やスタッフの育成などに全国駆け巡っております。

3年前になります。ちょうど還暦を迎えた時に社長を夫に譲りました。3年間私は会長職でやってきましたが、去年の26期が終わった時につくづく気がついたのは、会長と社長と名前が変わっただけで、やっていることはあまり変わり無いということでした。社員は船頭が2人いるようできっと迷惑しているだろう。夫の社長もこれではなかなか自立できないな。それではこれからの人生をどうするか。実は私にはもう1つの夢がありました。26年前飲食店をやりたいと思っていました。それを占い師に占ってもらったところ、「あなたは絶対に飲食店は駄目です。」と太鼓判を押され、今の仕事をしたわけですが、去年の10月に今の仕事を2人で続けていくよりは、26年前にもう1つやりたかった仕事を、何とか残りの人生、最後の人生としてやっていきたいと思いました。そこでまずお店の名前を決めました。「むつみ」です。63歳で始めるからです。そしてつい先日場所が決まりました。6月13日にオープンしようと考えております。どんなお店になるか分かりません。全部で10人くらいしか入れないお店だとは思いますが、本当に和やかに、睦まじく語り合ったおもてなしができればと思って、「和み処むつみ」と名前をつけました。13日はオープンのセレモニーができればと思っております。また改

めて皆様にはご案内状を出したい思いますので、お暇な方がいらっしゃいましたら是非足を運んでいただきたいと思います。場所は中区橋町1丁目、上前津と東別院の真ん中で、築45年の一軒屋でございます。

こうして10何年間、毎週ロータリーの皆様とお目には掛かって、親交を深めさせていただいて、ロータリアンとして大変喜ばしく思っております。ありがとうございました。どうぞこれからもよろしく願います。ご清聴ありがとうございました。

■東山 直史さん

私は国の組織の中でのCOP10の客員スタッフとして合計13カ国を回らせていただきました。7月が最後のお役目でロシアのモスクワへ行きますがこの詳しい中身は後ほど機会があれば話をさせていただきますと思っています。



実は私、昨年11月で満70歳を迎えました。人生七十古来稀なり、古希でございます。ここまで永らえたDNAをくれた親や先祖に心より感謝を申し上げ、厚く御礼をいたした次第でございます。人間は人それぞれに3つの年齢を持っていると言われております。1つは、戸籍年齢です。戸籍という個人データは、国の管理の中、皆様方のご存知の無い所で動いております。人生の終焉を迎えてからも30年は消されずにPCメモリーの中に残っております。大変恐いものであります。

2つ目は、個人認識年齢です。年齢というものを鑑みるときに、まずaggressive mindと言って、まだ若い、尻はまだ青い、まだ色香もある、あの山にも登りたい等の大変アグレッシブな前向きな姿勢で心身共に健康であるという年齢。それに対して、もう歳だ、今日起きたら何をしようか、連れ合いの女房には粗大ごみだ、濡れ落ち葉だと言われる、大変な人生になってきた等のweakly mind、負の年齢。そういうようなものがその人その人の人生を大いに分けてしまうのではないかと思います。どうぞ皆さんも人生を律していただきたいと思っております。

そして、3つ目は、第三者から見た年齢であります。あの人はまだ若い、あれだけの歳なのにまだしっかりしている、という方。それに対して、まだ若いのにえらい歳食っちゃったな、という年齢。トータル的に、その人その人には総合された年齢があるというようなことであります。

また、4つの春夏秋冬に例える人生があります。そしてそれぞれの季節は色でなぞらえられております。

まず春はゆりかごで育ちます。幼稚園、小学校、中学校、ある方は高校、大学まで進みます。また色々な分野へと育ちます。そして社会へと役立つ基本を成立させ、育成させます。その人達が次の基礎をなぞらえる為に大変な努力をし、恋愛もします。春の色は青です。青春です。

その基本が成熟期へと向かいます。夏に向かいます。そこで社会へと役立つ色々なノウハウ、経験を積んで大なる若き血潮に胸膨らまし、日本の社会の形成に貢献をします。夏の色は赤です。朱の色です。

そして人間は熟成されていきます。熟成されながら、色々な経験が世の中に役立って参ります。家庭を持ちます。子々孫々の人間の営みがあります。世の中の生産性というようなものの一員として大いに役立ち、エネルギーを費やします。秋は白と言われております。

そこで熟成されたトータルゼイシヨンの要因が日本の国を役立たせてくれます。そういう世の中で人々は順次安泰なる生活を送るべき努力をします。冬になります。冬の色は黒です。色々な人間の実績がトータルの結集され、ご自身でも自分の人生を振り返ってどうだったか、楽しい人生であったのか、遣り残した人生であったのか、色々とトータルゼイションされることであると思っております。そして終焉を迎える。これが春夏秋冬の色だと言われております。

私は1939年、昭和14年の生まれであります。順調に小学校、中学校、高校と進学し、昭和33年に名古屋の高校を卒業しました。昭和34年、1959年に京都の経済学部へ入学しました。1960年の安保です。日米安保条約の大変な時期に京都という学生運動の激しい街の中で学生の第一歩を踏み出しました。安保条約を考えますと、吉田茂首相の時サンフランシスコ条約が結ばれました。それ以後に旧日米安全保障条約が締結されました。旧安全保障条約の中では日本をいかに守るかという約束がなされていなかったもので、吉田内閣はこれではいけないということで、1951年にサンフランシスコ条約の中で日本を同レベルの条件に引き上げようとしてしました。そして日本は戦争に関する軍事力への投下資本を少なくして、経済復興のために日本の国力を傾注しようということになります。それが今をもってアメリカの傘の中での物語になっており、大変な不幸であったのか、幸いであったのか、それは皆様方のご判断されることではないかと思います。

60年安保、私はノンポリでありましたが、私たちの大学に一步入りますと、机とイスが15mくらい何重にもなってバリケードです。そしてその色はペンキで真っ赤になっています。私達と一緒にいる大学生であっても恐くて、教授などもそこへは近寄りたいた大変な雰囲気でした。日米安保条約の中身はほとんどの方々は理解をしていません。ただ反米主義、そして岸内閣打倒のイデオロギーをもって京都の川原町筋で大きなデモをしました。そういうようなことで私は松原警察署に2回拘留をされました。ノンポリではありますが、若いイデオロギーというようなもので一時期京都での生活を過ごしたということでございます。

どうもご清聴ありがとうございました。

第 909 回例会 (6月1日) のご案内

外部卓話

中部大学客員教授 名古屋工業大学名誉教授
梅野 正義さん